

平成26年人文学部  
 教員研究業績一覧（2014. 1. 1-12. 31）  
 Academic Achievements in 2014: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆等

⑥学会・研究会等での報告

⑦上記以外の業績

金井 直

- ① 1) 菊池聡編『錯覚の科学』（『視覚芸術と錯覚』を分担執筆，放送大学教育振興会）[共著]
- ② 1) 「風景-画と出会う」（『信州大学×長野県信濃美術館コラボ展』展覧会図録，長野県信濃美術館，pp. 8-13）[単著]
- ④ 1) 「アーツ・チャレンジ2015」キュレーター（あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会主催） 2) 「あいちトリエンナーレ2016」キュレーター（あいちトリエンナーレ実行委員会主催）
- ⑥ 「ロダン効果—アントニオ・カノーヴァの場合—」（国際シンポジウム「オーギュスト・ロダン（1840-1917）—複合的視点でとらえる」，静岡県立美術館，10月31日）[単独]
- ⑦ 1) パネルディスカッション「第28回松本市景観フォーラム」コーディネーター（松本市あがたの森文化会館，2月1日） 2) レクチャー「もっと！茅野市美術館／夢の企画を考えよう」（茅野市美術館，2月28日） 3) シンポジウム「現代美術の保存修復」コメンテーター（京都大学総合人間学部，3月23日） 4) 対談「見晴らし小屋・風景・絵画」（母袋俊也展，小諸高原美術館，7月6日） 5) ギャラリートーク（長野県信濃美術館，7月21日） 6) レクチャー「アートとは？安曇野で今可能なこととは？」（市民大学講座，安曇野市穂高交流学習センター，10月15日） 7) 対談「大西康明展 空洞の彫刻」（アートコートギャラリー，11月8日）

北村明子

- ④ <主要舞台研究作品> 1. [単独・国際]「Emotional Strata」、振付・演出、UCC Theater シンガポール、シンガポール国立大学 NUS Arts Festival 2014主催、2014/03/14・15 2. [単独・国際]「To Belong —cyclonicdream—」、振付・演出、UCC Theater シンガポール、

NUS Arts Festival 2014主催、2014/03/18・19 3. 平成26年度信州大学文化庁事業「共時と創発」インドネシア×日本国際共同製作「ふりつもの叙事詩のタイム-ダンスオペラ Gandari Work in Progress」、振付・総合監督、茅野市民館マルチホール、信州大学主催、平成26年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業、2014/07/21 4. 「To Belong / Suwung」演出・振付・出演、青山円形劇場、Dance New Air フェスティバル主催、2014/10/03-05 5. [共同・国際] Tari Opera Gandari ダンスパート演出・振付、Theater Jakarta、Yayasan Taut Seni 主催、国際交流基金アジアセンター共催事業、2014/12/12・13

⑤ 1. All About バレエ/バレエ観劇の関連情報 <http://allabout.co.jp/gm/gc/447106/> 北村明子『To Belong / Suwung』インタビュー!、2014年9月25日、8ページ 2. 追悼 堤清二理事長「光を与え続ける偉人」公益財団法人セゾン文化財団 view point 66号 Saison Foundation News Letter 25.Feb.2014 pp.006 3. 「インドネシア国際共同製作企画 To Belong Project の軌跡」公益財団法人セゾン文化財団 view point 67号 Saison Foundation News Letter 30.May.2014 pp.01-05 4. 「アートでつなぐ2つの国 インドネシアと日本 | 日伊共同制作ダンス公演 To Belong」インドネシア生活文化情報誌 クラウンライン出版 さらさ SARASA 2014. 12. 01 vol.121 pp42-43

⑥ 1. [単独・国際] 「To Belong —cyclonicdream— by Akiko Kitamura」、シンガポール国立大学 NUS Arts Festival 2014 NUS Arts Festival 主催、2014/2/23

⑦ <ワークショップ、レクチャー> 1. [単独・国際] 「Artist in Residence」クラス担当、Lassalle College Of The Arts 主催、「movement for 2」クリエーションワークショップ、2013/1/6~14、2013/3/3~7 全14回 2. 国内ダンス留学@神戸 NPO 法人 DANCE BOX「振付理論と実践」“身体とダンスと技法の複雑な関係” 2013/7/31~8/2 全7回 3. 「共時と創発」インドネシア×日本 国際共同制作企画「Gandahri」(ワーク・イン・プログレス/アフタートークセッション)、茅野市民館、信州大学主催、2014/7/21 4. Dance New Air フェスティバル レクチャー「コンテンポラリーダンスのワークショップと即興の分析」、こどもの城会議室11F、公益財団法人児童育成協会主催、2014/09/27 5. Dance New Air フェスティバル レクチャー「フェスティバルトーク」、こどもの城会議室11F、公益財団法人児童育成協会主催、2014/10/02 6. [共同・国際] Tari Opera Gandari Preview、Yayasan Taut Seni 主催、国際交流基金アジアセンター共催事業、Galeri Indonesia Kaya、2014/11/30 7. [共同・国際]

Tari Opera Gandari Press Conference、Yayasan Taut Seni 主催、国際交流基金アジアセンター共催事業、JS Luwansa Hotel and Convention Center、2014/12/04

濱崎友絵

⑥ 「日本におけるトルコ音楽研究—将来への課題と展望」(国際トルコ学会議、招待講演、2014年1月9日、於帝国ホテル)

⑦ 1) 日本学術振興会科学研究費(若手研究B、課題番号:25770039)(平成25年度~平成27年度)「現代トルコにおけるロマの音楽伝承をめぐる実態研究——スルクレ地区を事例として」研究代表者

⑦ 2) 「東京と音楽」(関西大学・早稲田大学連携講座、招聘講師、2014年9月4日、於早稲

田大学)

⑦3) 東洋音楽学会東日本支部委員 (2014年12月～現在に至る)。

早坂俊廣

② 「潘平格の生涯と思想」(『東洋史研究』第73巻第2号, pp.101-135) [単独]

③ 1) 「王畿『龍溪王先生会語』訳注 其の十六」(『白山中国学』第20号, pp.29-60) [共著] 2) 「王畿『龍溪王先生会語』訳注 其の十七」(『東洋古典学研究』第37集, pp.57-90) [共著] 3) 「王畿『龍溪王先生会語』訳注 其の十八」(『東洋古典学研究』第38集, pp.73-92) [共著]

⑦ 1) 講演「倭寇の記憶—安徽省南部の古村にて—」(長野県日中友好協会「第17期日中関係を考える連続市民講座 中国の歴史・文化と日本」, 2014年1月25日, 長野県日中友好センター教室) 2) 講演「孔子と現代」(長野県日中友好協会「第18期日中関係を考える連続市民講座 中国の歴史・文化と日本」, 2014年12月20日, 長野県日中友好センター教室)

三谷尚澄

② Locating the Space of Reasons: What it is like to be a good Sellarsian? (Shinshu Studies in Humanities, No. 1, pp.29-49) [単著]

⑥ 1) 「『所与』概念をめぐるカント／セラーズ派の分析」(Workshop at Tsukuba 2014 仏教認識論と比較思想の可能性, 筑波大学, 3月6日) [単独] 2) 「人はいつ、いかにして理由の空間の住人となるのか」(応用哲学会, 関西大学, 5月10日) [単独] 3) The Return of the Dad: On Millikan-Brandom debate about the legacy of Wilfrid Sellars (The Second Conference on Contemporary Philosophy in East Asia (2nd CCPEA), Kyoto University, Japan, 8月29日) [単独・国際] 4) Some Reflections on the Social Origin of Intentionality: A Sellarsian Perspective (The Collective Intentionality IX, the Indiana Memorial Union, Indiana University, USA, 9月13日) [単独・国際]

⑦ 1) 「〈生きる〉意味を求めて」(「第九回別離の悲しみを考える会」浄土真宗本願寺派総合研究所(主催), 西本願寺聞法会館, 2月7日) 2) 「抵抗と脱臼のボキャブラリーを修得する—哲学と読書の幸福な関係をめぐって」(信州大学哲学・思想論分野哲学懇話会大会シンポジウム「哲学書の読み方／読まれ方」, 信州大学, 6月14日) 3) 科学研究費補助金(若手研究B)「若きセラーズの思想形成過程の解明」に基づく研究を研究代表者として実施(3月31日まで) 4) 科学研究費補助金(基盤研究C)「セラーズの哲学と20世紀英米圏における实在論哲学の影響関係をめぐる研究」に基づく研究を研究代表者として実施(4月1日から)

護山真也

① 1) *Omniscience and Religious Authority: A Study on Prajñākaraḡupta's Pramāṇavārttikā-lankārabhāṣya ad Pramāṇavārttika II 8-10 and 29-30*. LIT Verlag. [単著]

② 1) 「プラジュニヤーカーラグプタの〈知覚=存在〉説に関する一資料」, 『信州大学人文科学論集』第1号(通巻48号), pp. 51-73. [単著] 2) 「ラトナーカラシャーンティのプラ

マーナ論に関する一資料——*Madhyamakālaṅkāravṛtti ad Madhyamakālaṅkāra* vv.32-40 和訳研究——, 『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』(佼成出版社), pp. 771-782. [単著]

③ “Ratnākaraśānti's Theory of Cognition with False Mental Images (*\*alīkākāravāda*) and the Neither-One-Nor-Many Argument,” *Journal of Indian Philosophy*, 42, pp. 339-351. [単著]

⑥ 1) 「仏教認識論における所与」(ワークショップ「仏教認識論と比較思想の可能性」招待講演, 筑波大学, 3月6日) [国内・単独] 2) “On *dharmisvarūpaviparītasādhana*” (17th Congress of International Association of Buddhist Studies, University of Vienna, 8月22日) [国際・単独] 3) 「プラジュニャーカラグプタの〈知覚=存在〉説」(「インド哲学諸派における〈存在〉概念の解明」プロジェクト合同発表会, 松本, 9月14日) [国内・単独]

#### 菊池聡

- ① 『錯覚の科学』放送大学教育振興会 [編著]
- ② 『ニセ科学を信じてしまう心のしくみ』理科の探検, 春号, p.100-105. [単著]
- ⑥ 1) 「心理学を通じた批判的思考教育」日本心理学会第78回大会, 9月10日, 同志社大学 [共同] 2) 「批判的思考と英語版論理的思考能力テストの関連性」日本教育心理学会第56回大会, 11月9日, 神戸大学 [連名]
- ⑦ 1) 「だまされる心の心理学」(松川町まつかわ大学: 信州大学出前講座, 2月22日) 2) 「ポジティブに生きるための心理学」(長野県土地改良事業団体連合会・平成26年度土地改良区職員研修会: 信州大学出前講座, 4月15日) 3) 「前向きに生きるための心理学」(長野市老人クラブ連合会研修会: 信州大学出前講座, 6月5日) 4) 「心理学からのクリティカルシンキング入門」(平成26年度教員免許状更新講習, 7月26日) 5) 「ポジティブに生きるための心理学」(QCサークル関東支部長野地区中信ブロック・第5614回現場 KAIZEN 発表大会特別講演, 8月22日) 6) 「心理的錯覚としての疑似科学」(第8回錯覚ワークショップ, 9月8日 明治大学) 7) 「だまされる心の心理学」(平成26年度第2回安曇野市民大学講座, 10月1日) 8) 「だまされる心理を学ぼう! あなたは大丈夫? 特殊詐欺や悪質商法の被害に遭わないために」(長野県県民文化部くらしのセミナー, 10月10, 14, 15, 27日) 9) 「だまされる心の心理学」(木曾青峰高等学校理科数科高大連携講座: 信州大学出前講座, 10月22日) 10) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学附属松本中学校PTA講演会: 信州大学出前講座, 10月17日) 10) 「だまされる心理学—油断大敵・明日は我が身」(近江八幡消費生活センター講演会, 11月14日)

#### 澤木幹栄

- ① 『徳之島方言辞典 基礎データ版』, 科研費報告書, 154頁 [共著]
- ② 「徳之島方言の音節頻度表から何が分かるか」『信州大学人文科学論集第1号』 p75-82 [単著]
- ⑤ 言語地理学研究会「伊那諏訪地方の同音衝突回避」11月30日
- ⑥ 免許更新講習会「音声から見た方言」7月26日

## 佐藤広英

- ① 1) 「第11章ウェブを使った調査の実施方法」(宮本聡介・宇井美代子(編)『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社, pp.226-245) [共著]
- ② 1) 「プライバシー意識尺度の作成」(パーソナリティ研究, 23, 49-52) [共著] 2) 「情報プライバシーがインターネット上におけるコミュニケーション行動に及ぼす効果」(信州大学人文科学論集, 1, 83-91) [共著] 3) 「SNS上での自己情報の公開と迷惑行為被害経験との関連: mixi 利用者を対象として」(人間科学(常磐大学人間科学部紀要), 32, 13-21) [共著]
- ⑥ 1) 「高校生の情報プライバシーとネット上での対策行動, 迷惑行為被害との関連」(日本社会心理学会第55回大会, 北海道大学, 7月26日) [共同] 2) 「観光動機と訪問先の意思決定過程の関係」(日本心理学会第78回大会, 同志社大学, 9月10日) [共同] 3) 「ストレス負荷操作は実験者の気分に影響を及ぼすのか?」(日本心理学会第78回大会, 同志社大学, 9月10日) [共同] 4) 「関係予期が未知の他者への自己情報公開を規定する要因に与える影響: 入力情報数に着目して」(日本心理学会第78回大会, 同志社大学, 9月10日) [共同] 5) 「インターネット上における高校生の情報プライバシー: 世代間の比較」(日本パーソナリティ心理学会第23回大会, 山梨大学, 10月4日) [共同]
- ⑦ 1) 社会言語科学会・学会誌編集委員会委員(2013年4月~2016年3月) 2) 日本パーソナリティ心理学会・経常的研究交流委員会委員(2011年10月~2014年10月) 同副委員長(2012年10月~2014年10月), 各種電子化検討小委員会委員(2014年4月~2015年10月), 学会誌編集委員(2014年10月~2017年10月) 3) 「高校生のインターネット上におけるプライバシー意識と問題行動に関する心理学的研究」(財団法人電気通信普及財団平成24年度研究調査助成報告書) 4) 「ネット依存を考える」(日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会公開シンポジウム(司会), 信州大学人文学部, 2月22日) 5) 「インターネットの心理学: メディアとの上手な付き合い方」(信州大学出前講座, 伊那市役所, 2月27日) 6) 「ネットコミュニケーション困りこと対策講座」(信州大学農学部学生相談室企画講演会, 信州大学農学部, 7月2日) 7) 「親子で学ぶインターネットのルール」(信州大学出前講座, 会染小学校, 10月16日) 8) 「SNSと人権: 大学生のSNSトラブルの実態とその対応策」(奈良大学教職員対象人権講演会(招待講演), 奈良大学, 11月20日)

## 茅野恒秀

- ① 1) 『環境政策と環境運動の社会学: 自然保護問題における解決過程および政策課題設定メカニズムの中範囲理論』(ハーベスト社, 全303頁) [単著] 2) 『緑のガムの科学: 減災・森林・水循環』(蔵治光一郎・保屋野初子編, 築地書館, 全253頁、第2章「多様な主体による森林管理と地域づくり」126-140頁を執筆) [共著] 3) 『いわて地誌アーカイブ [1] 岩泉・海と小本』(岩手県立大学総合政策学部編, イーピックス, 全201頁、§3「中野七頭舞に想う、地域社会の持続可能性」30頁を執筆) [共著]
- ② 1) 「固定価格買取制度(FIT)導入後の岩手県の再生可能エネルギー」(『サステナビリティ研究』4: 27-40) [単著] 2) 「過疎地域の地域づくりを支える人的ネットワーク: 岩手県葛巻町の事例」(『日本森林学会誌』96(4): 221-228) [共著]

- ⑤ 「Who's Who:Professor Harutoshi Funabashi:Chairperson of the Citizens'Commission on Nuclear Energy」(『NUKE INFO TOKYO』160:12) [単著]
- ⑥ 1) 「生物多様性保全と地域づくりに向けた協働-赤谷プロジェクトの挑戦」(4月26日、国際生物多様性の日記念シンポジウム「森の木を伐りながら生き物を守る-木材生産と生物多様性保全の両立に向けて」、独立行政法人森林総合研究所主催、札幌市かでの) [単独] 2) 「固定価格買取制度はこれで良いか? : 地方の実態と変革の戦略を考える」(6月14日、第49回環境社会学会大会、福島大学) [単独]
- ⑦ 1) 講演「エネルギーの転換と地域社会の未来」(3月8日、一関市民パワー発電所事業化検討地域協議会設立記念講演会、一関公民館なのはなプラザ) 2) 講演「市民が担う再生可能エネルギー」(5月24日、NPO 法人自然エネルギーを広める岩手の会シンポジウム、盛岡市公会堂) 3) 講演「コミュニティ発電所の進め方と課題」(6月22日、みなかみ地域エネルギー協議会学習会、みなかみ町中央公民館)

#### 辻 竜平

- ① 1) 『ソーシャル・キャピタルと格差社会』(辻竜平・佐藤嘉倫編著、東京大学出版会、256頁) [共編著] 2) 「第3章 コミュニケーション：なぜ世間はせまいのか—スモールワールド」, 小林盾・金井雅之・佐藤嘉倫・内藤準・浜田宏・武藤正義編, 『社会学入門：社会モデルでよむ』, 朝倉書店. [共著]
- ② 「過疎地域の地域づくりを支える人的ネットワーク：岩手県葛巻町の事例」(『日本森林学会誌』96(4), pp.221-228.) [共著]
- ⑥ 1) “Examining the chain relationship from initial contact to classical music to socio-economic status via music preference” (July 17, 18th ISA World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama) [単独・国際] 2) 「クラシック音楽への初期接触と選好：潜在クラス分析を用いて」(7月27日、日本社会心理学会第55回大会、北海道大学) [単独]
- ⑦ 1) 『地方小都市の暮らしと市民意識：2013年度大町市調査実習報告書』(信州大学人文学部社会学研究室) [単編著] 2) 「ネットワーク理論」「社会関係資本」「弱い紐帯」, 下山晴彦・大塚雄作・遠藤利彦・齋木潤・中村知靖編, 『誠信心理学辞典 新版』, 誠信書房. [共著] 3) 「新潟県中越地震からの復旧・復興に見る人間関係の問題と予防策」(「古里地区防災講演会」, 10月4日) 4) 「新潟県中越地震からの復旧・復興に見る人間関係の問題と予防策」(「篠ノ井地区防災講演会」, 10月31日)

#### 水原俊博

- ②水原俊博, 2014, 「後期ボードリヤールの社会理論の社会学的検討」『信州大学人文学部論集』1, 93-103, 単著.
- ⑥水原俊博, 2014. 11. 23, 「後期ボードリヤールのポストモダン情報社会論のメディア論的検討」, 第87回日本社会学会大会 (於：神戸大学), 単独.
- ⑦ 1) 【受託研究】松本市多文化共生調査, 共同. 2) 【受託研究】上海消費社会調査, 共同. 3) 【学会運営】経済社会学会年報編集委員長 (常任理事).

## 今井 章

② 1) 「事象関連電位によるデルブーフ錯視の検討(5)―内円が分割, 短縮する条件における脳の応答について―」信州大学人文学部人文科学論集, 1(48), 105―115頁 [単著] 2) 「知覚運動情報が行為・文一致効果に及ぼす影響」信州大学人文学部人文科学論集, 1(48), 127―140頁 [共著] 3) 「脳磁図を用いた仮現運動に対応する脳活動―ベータ運動による検討―」電気学会誌C, 134, 856―863. 頁 [共著]

⑥ 1) 「両眼立体視刺激によるベータ運動観察時の脳磁界活動」日本視覚学会2014年冬季大会, *Vision*, 26, 54-55頁 (1月23日, 工学院大学) [共同] 2) 「刺激の文脈と学習強度が再認記憶に及ぼす影響―事象関連電位からの検討―」日本生理心理学会第32回大会発表予稿集, 57-57頁 (5月18日, 筑波大学) [共同] 3) 「仮現運動による脳磁界誘発反応」第29回日本生体磁気学会大会, 日本生体磁気学会誌, 27 (特別号), 129-130頁 (5月30日, 大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター) [共同] 4) “Visual evoked fields: Relating to apparent motion illusion.” The 19th International Conference on Biomagnetism, Abstract CD-ROM of International Conference on Biomagnetism (8月26日, Halifax) [共同・国際] 5) 「デルブーフ錯視からリップス大きさ錯視へ―同心円錯視の内円布置の違いによる事象関連電位―」日本心理学会第78回大会発表論文集, 558-558頁 (9月10日, 同志社大学) [単独] 6) 「左右非対称な顔視覚的複合刺激がマガーク効果に及ぼす影響」日本心理学会第78回大会発表論文集, 592-592頁 (9月12日, 同志社大学) [共同] 7) “Components of event-related fields exhibited during apparent motion illusion with a binocular stereoscopic stimulus: A magnetoencephalographic study.” The 17th World Congress of Psychophysiology (IOP2014), *International Journal of Psychophysiology*, 94(2), 209-209頁 (9月24日, Hiroshima) [共同・国際]

⑦ 1) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成25年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について―安全運転のために―』」(1月9日, 長野県松本文化会館) [単独] 2) 平成26年度第1回日本生理心理学会編集委員会定例会議 (5月17日) 3) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成26年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について―安全運転のために―』」(7月10日, 長野県松本文化会館) [単独] 4) 平成26年度第2回日本生理心理学会編集委員会定例会議 (9月12日)

## 岡本卓也

① 1) 「集団間のいがみ合い」(『自ら挑戦する社会心理学』 保育出版社, pp.113-115, 2014年12月) [単独] 2) 「コンティンジェンシーモデル, 変革的リーダーシップ」(『自ら挑戦する社会心理学』 保育出版社, pp.136-139, 2014年12月) [単独]

② 1) 「既存用水路を利用した小水力発電技術導入の慣行水利権における問題点: 長野県下水内郡栄村堺小赤沢地区における消雪溝排水用水路への水車設置を中心として」(『信州大学法学論集』23, 317-332, 2014年3月) [共同] 2) 「観光動機の違いが観光情報収集と訪問地選択に与える影響」(『地域ブランド研究』9, 31-42, 2014年3月) [単独] 3) 「写真投影法による子どもの危険認知の把握」(『コミュニティ心理学研究』18(1), 21-41, 2014年10月)

[共同] 4) 「写真による高齢者の地域生活把握の試み—写真-ナラティブ誘出法 (PEN-A: Photo Eliciting Narrative Approach) による写真とナラティブの内容分析を中心として」(『コミュニティ心理学研究』18(1), 42-59, 2014年10月) [共同] 5) 「地域資源の発見・開発手法としての写真調査法の可能性: 沖縄県国際通りを事例として」(『コミュニティ心理学研究』18(1), 60-77, 2014年10月) [共同]

⑥ 1) 「Scaling for individual relations and visualizing small group process(1)」(『28th International Congress of Applied Psychology』, Paris Convention Centre 2014年7月) [共同・国際] 2) 「Scaling for individual relations and visualizing small group process(2) Visualizing social interactions and psychological attitudes-」(『28th International Congress of Applied Psychology』, Paris Convention Centre, 2014年7月) [共同・国際] 3) 「水利権認知の違いによる地下水保全に対する意識」(『日本グループ・ダイナミクス学会第61回大会発表論文集』, 204-205, 東洋大学, 2014年9月) [単独] 4) 「横浜市磯子区におけるコミュニティ意識に関する調査(1)」(『日本社会心理学会第55回大会発表論文集』, 385, 北海道大学, 2014年7月) [単独] 5) 「横浜市磯子区におけるコミュニティ意識に関する調査(2)—居住の契機と Place Identity の関係—」(『日本社会心理学会第55回大会発表論文集』, 384, 北海道大学, 2014年7月) [単独] 6) 「観光動機と訪問先の意味決定過程の関係」(『日本心理学会第78回大会』, 同志社大学, 2014年9月) [共同] 7) 「多次元オープナー尺度の検討—コミュニケーション参与スタイル、他者発言頻度との関連—」(『日本心理学会第78回大会』, 同志社大学, 2014年9月) [共同] 8) 「児童福祉司の現任研修およびケース対応に関する調査」(『第20回 子ども虐待防止世界会議2014 大会発表論文集』, 45, 名古屋国際会議場 2014年9月) [共同] 9) 「観光の事前情報の収集は、訪問先の意味決定にどのように関与するか?」(『北海道心理学会第61回大会シンポジウム 観光行動を読む—心理学で考える観光まちづくり—』, 小樽商科大学, 2014年11月) [単独]

⑦ [報告書] 1) 「安曇野市における行政と住民の協働を進めるための社会的資源に関する研究」(『平成25年度安曇野市受託研究報告書』, 2014年3月) [共同] 2) 「安曇野観光における情報資源に関する実態調査」(『平成25年度安曇野市受託研究報告書』, 2014年3月) [共同] 3) 「首都圏におけるコミュニティ活動の現状と今後の動向に関する共同研究報告書—横浜市磯子区におけるコミュニティ意識に関する定量調査—」(『東京ガス株式会社都市生活研究所共同研究報告書』, 2014年3月) [共同] [外部資金の取得] 1) 「[場所] の魅力の解明—場所経験が人生移行に与える影響」(科学研究費補助金 (基盤研究(C)): 研究代表) 2) 「WEBデータベースによる子ども虐待研修の共有システムの構築」(科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究): 分担研究) 3) 「オンラインコミュニティにおける SNS ストレスの低減と主観的幸福感の向上」(平成25年度 電気通信普及財団研究助成) 4) 「所属地域の移動に伴う心理的葛藤—仮想世界ゲームによる適応、排斥、受容の心理過程の分析—」(科学技術融合振興財団 平成24年度研究助成) 5) 「首都圏におけるコミュニティ活動の現状と今後の動向に関する共同研究」(東京ガス都市生活研究所) 6) 「行政と住民の協働を進めるための社会的資源に関する研究」(平成25年度 安曇野市受託研究) 7) 「安曇野観光における情報資源に関する実態調査」(平成25年度 安曇野市受託研究) [学会運営に関わる業務] 日本コミュニティ心理学会研究委員会委員 [研修] 平成25年度 安曇野市職員研修講師



## 清水健司

- ② 「自己愛傾向と対人恐怖心性がバウムテスト指標に及ぼす影響」信州大学人文科学論集, 1, pp.117-125[共著]
- ⑤ 1) 「孤独感と孤独の捉え方が友人関係に及ぼす影響」(日本心理臨床学会第33回秋季大会, p.265 パシフィコ横浜 8月) [共同・国内] 2) 「森田神経質尺度作成の試み」(日本心理学会第78回大会, p.55 同志社大学 8月) [共同・国内] 3) 賞賛獲得欲求および拒否回避欲求が過剰適応に及ぼす影響 (日本教育心理学会第56回総会, p.493 神戸国際会議場 11月) [共同・国内]
- ⑥ 1) 平成26年度長野県実習指導者養成講習会研修講師「教育心理Ⅰ」(9月 長野県看護協会) [単独] 2) 日本パーソナリティ心理学会機関誌編集委員会委員 (第23期 平成26年度)

## 高瀬弘樹

- ① 山口光國・春木豊 (編著) 『セラピストの動きの基本』(「体と心のトレーニング ①呼吸法」 pp.152-169) [共著]
- ② 1) 「知覚運動情報が行為・文一致効果に及ぼす影響」(信州大学人文科学論集, 1, 127-140.) [共著] 2) 「脳磁図を用いた仮現運動に対応する脳活動—ベータ運動による検討—」(電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌), 134, 856-863.) [共著]
- ⑤ 1) 「PVC ゲルアクチュエータを用いた呼吸引き込み装置の開発」(第16回日本感性工学会大会, 9月4日, 中央大学) [共同] 2) 「発声と身体運動, 環境情報の協調」(日本心理学会第78回大会, 9月11日, 同志社大学) [共同] 3) 「知覚情報の操作が自己感に与える影響」(日本心理学会第78回大会, 9月12日, 同志社大学) [共同]

## 長谷川 孝治

- ① 1) 『自ら挑戦する社会心理学』 土肥伊都子 (編) 保育出版社 (4-1 「自己とは」, 4-2 「自己意識」 pp.48-53を分担執筆) [共著]
- ② 1) 安心さがしと社会的スキルおよびパーソナリティ特性との関連 信州大学人文科学論集, 1, 147-153. [単著]
- ⑥ 1) The moderate effect of perception of acceptance on the process self-esteem and reassurance seeking influence friend's appraisal: Why are only low self-esteems rejected? (The 15th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Feb. 15, Austin, Texas, USA) [単独・国際] 2) The influence of self-esteem and reassurance seeking on psychological closeness between the self and other: Misperception as a factor inducing rejection. (The 28th International Congress of Applied Psychology, Jul. 10, Paris, France) [単独・国際] 3) クラシック音楽祭への参加経験と心理的健康との関連 (日本グループ・ダイナミクス学会第61回大会, 9月7日, 東洋大学) [単独] 4) 自尊心と安心さがしがサポート授受に及ぼす影響 (日本心理学会第78回大会, 9月12日, 同志社大学) [単独]
- ⑦ 1) 日本社会心理学会「社会心理学研究」編集委員 2011年4月～2015年3月

## 久保亨

① 1) 久保 亨・波多野澄雄・西村成雄共編著『戦時期中国の経済発展と社会変容』慶應義塾大学出版会、2014年、1-474頁。 2) 久保 亨・瀬畑源『国家と秘密：隠される公文書』集英社新書、2014年、1-206頁。

② 1) 久保 亨「『義勇軍行進曲』の時代」(歴史学研究会編『世界史20講』岩波書店、2014年)145-153頁。 2) 久保 亨・牧野文夫「戦前期工業」(南亮進・牧野文夫『アジア長期経済統計 3 中国』東洋経済新報社、2014年)105-118頁。

⑥ 1) 「1950年代の日中関係」〔単独〕、日中歴史研究者の意見交換会、2014年3月11日、日本国際問題研究所。 2) 「華北地域概念の形成と日本」〔単独〕、明清以来華北区域市場の演進ワークショップ、2014年9月13日、天津社会科学院。 3) 「近幾年来在日本の近代中国金融史研究動向」〔単独〕、銀行家与上海金融変遷和転型シンポジウム、2014年10月21日、復旦大学。

⑦ 1) 「対談 日本と中国・東北アジア：経済史・地域研究の視点から」(久保亨・松野周治)『経済』第229号、2014年10月、83-101頁。 2) 「講演 華北地域概念の形成と日本」、『2014年度前期東洋学講座』、2014年7月7日、東洋文庫。

## 笹本正治

① 1) 『第3回東アジア山岳文化研究会報告書 2013』〔共著〕(3月31日、「東アジア山岳研究における農業と林業の視点—第三回東アジア山岳文化研究会の趣旨—」9~19頁、信州大学山岳科学総合研究所) 2) 『枚方の鋳物師 2 一古文書編一』〔共著〕(3月31日、「枚方の鋳物師と真継家」3~12頁、枚方市教育委員会・公益財団法人枚方市文化財研究調査会) 3) 『文化的景観「小菅の里」』〔共著〕(3月、「文献史料からみた元隆寺を中心とした歴史」34~41頁、「霊場としての小菅」45~54頁、長野県飯山市教育委員会)

② 1) 「遺跡資料リポジトリと信州大学附属図書館」〔単著〕(1月31日、『信州大学附属図書館研究』第3号1~18頁、信州大学附属図書館) 2) 「殿村遺跡とその時代—虚空蔵山城と中ノ陣城から見た戦国時代—」〔単著〕(3月28日、『殿村遺跡とその時代Ⅲ』16~37頁、松本市教育委員会)

⑤ 1) 「真田三代はなぜ輝き続けるのか」〔単著〕(1月25日、『大人の休日クラブジパング』2014年2月号8頁、東日本旅客鉄道株式会社) 2) 「人生が伝わる一本の楽しみ—」(3月3日、『タウン情報』第4面) 3) 「『信州版・大学を活用した美術館ネットワーク化事業』に期待する」(3月31日、『平成25年度信州版・大学を活用した美術館ネットワーク化』) 4) 「高遠石工とその足跡」〔単著〕(4月1日、『地域文化』108号24~28頁、八十二文化財団) 5) 「地域に根ざした大学づくりで素晴らしい人材を育成していく」〔単著〕(4月1日、『地域とともに』8号23頁、金沢大学地域連携推進センター) 6) 「松本の災害と文化財」〔単著〕(6月、『NPO 法人災害から文化財を守る会 情報ネット』2014年30号5~8頁、NPO 法人災害から文化財を守る会)

⑥ 1) 「自然の恵みに生きる人間—天空と地上を結ぶ信仰を通して—」〔単独〕公開シンポジウム「生き物と人が豊かに生きる絆づくり in 安曇野」パネリスト(3月8日、ミヤマシジミ研究会・信州大学地域戦略センター・豊科交流学習センター「きぼう」) 2) 「川中島合

戦に一騎打ちはなかった」[単独]（4月21日、日本機械学会の機素潤滑設計部門講演会・松代ロイヤルホテル） 3)「信州大学のベンチャーマインド教育と地域貢献」[単独]（9月19日、信州大学・信州大学SVBLフォーラム・信州大学上田キャンパス 総合研究棟7F ミーティングルーム1） 4)「文化財とまちづくり」[単独] 公開シンポジウム「泉水路を活かしたまちづくり—地域資源である池庭と水路の活用と保全—」パネリスト（11月23日、日本造園学会中部支部・サンホールマツシロ 長野市松代）

⑦ 1)「地域の魅力と地域作り—飯山市小菅の場合—」[単独]「金沢大学 地域の感性を備えた人材を育て地域をつなぐ「地（知）」の拠点キックオフシンポジウム」パネリスト（1月15日、金沢大学・金沢大学自然科学系図書館棟 1F 大会議室） 2)「蔵の町並みキャンパス元気スクール 農商工観地域活性化シンポジウム」コーディネーター（1月29日、須坂市・須坂市シルキーホール） 3)「安曇野の屋敷林」[単独]「安曇野 屋敷林フォーラム2014」パネリスト（2月22日、屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト・安曇野市碌山公園研成ホール） 4)「金山と差別—日本の聖と賤—」[単独]（2月28日、鳥根県教育庁文化財課・石見銀山世界遺産センターフォーラム） 5)「我らがふるさと～信州の火祭り～」コーディネーター（3月9日、信州大学・日本ケーブルテレビ連盟信越支部長野県協議会・飯山市公民館） 6)シンポジウム「発掘が語る中世の松本—武士の城・館と人びとの信仰—」コーディネーター（3月16日、松本市教育委員会・信州大学地域戦略センター・あがたの森文化会館講堂） 7)「昆虫と人間—チョウとトンボの信仰—」[単独]（4月8日、松本大学予備校入学式・松本市市民芸術館） 8)「博物館とは何か—世界の博物館、地域の博物館—」[単独]（4月13日、松本まると博物館友の会・松本市立博物館講堂） 9)「長野県の文化祭礼」[単独]（5月22日、文化庁プロジェクト・共時と創発・まつもと市民芸術館） 10)「石の信仰と石仏—守屋貞時を理解するために—」[単独] シンポジウムコーディネーター（9月13日、伊那市教育委員会・伊那市高遠町総合福祉センターやますそ） 11)「『三日市場城』現地見学会講師」[単独]（9月27日、白馬村教育委員会・信州大学地域戦略センター・白馬村三日市場城） 12)「川中島合戦の真実—一騎打ちはなかった—」[単独]（10月3日、監事協議会関東・甲信越支部・信州大学本部管理棟5階第1会議室） 13)「飯山城の歴史を踏まえたまちづくり」[単独] 飯山城築城450年記念シンポジウム「飯山城の歴史を踏まえたまちづくり」コーディネーター（10月4日、飯山市・飯山市民会館ホール） 14)「長野県の文化祭礼を知る～地域の歴史を知る～」[単独]（10月17日、松本演劇工房・松本市市民芸術館） 15)「芸能の場と時間、音」[単独]「芸能の本質—神との接点」[単独]（10月31日、松本演劇工房・松本市市民芸術館） 16)「ハンコの歴史」[単独]（11月1日、市川三郷町六郷印章業連合組合・市川三郷町商工会六郷支所） 17)「地域再生の核となる大学の役割」[単独]（11月13日、（東京）日経メディアマーケティング講演会） 18)「三郷の自然と文化」[単独]（11月16日、三郷文化研究会・安曇野市三郷公民館） 19)「城と城下町をいかしたまちづくり」シンポジウムコーディネーター（11月29日、彦根市・全国城サミット in 彦根） 20)「川中島合戦の真実—一騎打ちはなかった—」[単独]（12月13日、八十二文化財団・八十二文化財団） 21)「小菅の里及び小菅山の文化的景観シンポジウム」コーディネーター（飯山市・信州大学・飯山公民館講堂） 22)「日本人の暮らしと緑～松本の自然、歴史、文化を踏まえて～」[単独] シンポジウムパネリスト（12月20日、松本市都市計画課・あがたの森文

化会館講堂)23)「英雄たちの選択 戦国合戦の謎「長篠の戦い 戦国最強・武田軍はなぜ敗れたか?」[共演] (6月5日, B S プレミアム20時~21時)

山本英二

① 1)「史料を読み解く 慶安御触書」(週刊朝日百科『週刊日本の歴史』34号, 朝日新聞出版, pp.28-29) [共著]

② 1)「書評と紹介 佐藤孝之著『近世山村地域史の研究』」(『日本歴史』788号, pp.153-155) [単著], 2)「書評 本城正徳著『近世幕府農政史の研究』」(『日本史研究』617号, pp.68-74) [単著]

⑥ 1) 講座「江戸時代の謎と不思議」(名古屋市・栄中日文化センター, 1月17日, 2月21日, 3月21日, 4月18日, 5月16日, 6月20日, 7月18日, 8月29日, 9月19日) [単独], 2) 特別展・学都松本の礎—近世・近代、学びの場—記念講演「松本藩校・崇教館と多湖家」(松本市・松本市立博物館, 2月22日) [単独], 3) 2014年度人権リーダー養成・部落問題講座講演「部落差別の歴史と文化」(長野市中央隣保館・NPO 人権センターながの, 8月6日) [単独], 4) 2014年度長野県人権教育リーダー研修会講演「高校教科書で学ぶ江戸時代の身分」(塩尻市・長野県総合教育センター, 9月1日) [単独], 5) 愛知大学文学部春学期非常勤講師「日本史学講読」, 6) 日本古文書学会編集委員, 7) 徳川林政史研究所特任研究員, 8) 関東近世史研究会評議員, 9) 愛知大学大学院文学研究科客員研究員

大串潤児

① 1) 君島和彦編『近代の日本と朝鮮』東京堂出版、2014年8月、[共編著]。「総論 現代歴史学とわれわれの視座」(1~20頁)「第8章 国民文化会議の誕生と曲折」(273~320頁)。

2) 河西英通編『地域のなかの軍隊3 中部 列島中央の軍事拠点』吉川弘文館、2014年12月 [共著]「内陸の都市と軍隊 長野・山梨」(170~204頁)「コラム 内陸の軍隊 慰霊・本土決戦・戦後」(205~212頁)。

② 1)「再考・歴史的思考力」全国歴史教育研究協議会編『全歴研研究紀要』第50号、2014年3月、90~95頁 [単著] 2)「歴史教科書問題考察の原点」『現代思想』第42巻第6号、2014年4月、148~159頁 [単著] 3)「戦後地域民主化と文化運動」平川新・千葉正樹編『講座東北の歴史』第2巻「都市と農村」、清文堂、2014年9月、94~115頁 [単著] 4)「家永三郎生誕一〇〇年と教科書訴訟の歴史的意義」『歴史評論』第774号、2014年10月、79~88頁 [単著]

⑤ 1)「文献紹介 島田隆『未完のたたかい 長野の農村民主化運動 島田武雄の足跡』(農山漁村文化協会2014年)」『信大史学』第39号、2014年11月、60~63頁 [単著] 2)「研究動向 〈急激な社会変化〉の人間学 大門正克ほか編『高度成長の時代』(全3巻、大月書店、2010年)が問うたもの」『同時代史研究』第7号、2014年12月、76~83頁 [単著]

⑦ 1)「シンポジウム 歴史記録をいかしたまちづくりに向けて 地域公文書の保存と活用」司会・問題提起、2014年2月8日、於・安曇野市穂高交流学習センターみらい 2)「通説・定説と教科書評」『歴史学研究』第918号、2014年5月、42~43頁 [単著] 3)「占領生活」『週刊朝日百科 新発見!日本の歴史』第44号(現代4 敗戦・占領の「断絶と連続」)、

朝日新聞社、2014年5月、18～20頁 [単著] 4) 飯田市歴史研究所第12回「地域史研究集会 特集 記憶と経験を語り継ぐこと 地域遺産としての「口述資料」」司会、2014年8月23日、於・飯田市中央公民館 5) 「平和のための信州・戦争展」実行委員長、2014年10月3～6日、於・松本市勤労福祉センター 6) 「第5回 満蒙開拓青少年義勇軍シンポジウム」実行委員長・基調報告・コメント (「教科書のなかの義勇軍」)、2014年10月5日、於・長野市勤労者福祉会館

#### 黒田祐我

- ① 『中近世ヨーロッパの宗教と政治—キリスト教世界の統一性と多元性—』 (甚野尚志, 踊共二編, ミネルヴァ書房, 総424頁) [共著]
- ② 「カスティーリャとグラナダとの狭間で揺れ動くひとびと—「境域」民の振る舞い—」 (『歴史学研究』 第924号, pp.147-155) [単著]
- ③ 「中世カスティーリャ王国における「レコンキスタ」と「十字軍」—関連史料訳—」 (『エクスラシス別冊—ヨーロッパ文化研究—』 第1号, pp.95-117) [単著]
- ⑤ 「日本とスペイン、そして海域史」 (『地中海学会月報』 第369号, p.7) [単著]
- ⑥ 1) 「異教徒との交易の実態—カスティーリャ＝グラナダ「境域」をめぐる—」 (スペイン史学会第157回定例研究会, 学習院大学, 4月26日) [単独] 2) 「カスティーリャとグラナダとの狭間で揺れ動くひとびと—『境域』民の振る舞い—」 (歴史学研究会大会合同部会, 駒澤大学, 5月25日) [単独] 3) 「レコンキスタの『記憶』をめぐる—近年の中世史をめぐる研究動向から—」 (スペイン史学会第36回大会, 慶應義塾大学, 11月2日) [単独] 4) 「信仰を替えることの意味—中世スペインの事例—」 (「アジア・アフリカにおける諸宗教の関心の歴史と現状」研究会第2回研究会, 上智大学, 12月13日) [単独]
- ⑦ 1) ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ市立古文書館調査 (科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 「中世イベリア半島における融和と軋轢—諸宗教・諸社会間における「辺境」比較史—」による調査, 2月24日～3月10日) 2) 「スペイン中世史の特質 (12～15世紀)」 (NPO 法人かわさき市民アカデミー「世界を旅する⑩スペイン・ツアー」講座担当, 5月7日) [単独] 3) 「スペイン史学会夏合宿 (於山喜旅館)」 (スペイン史学会委員として主催, 7月19～20日) 4) 「スペイン史学会第36回大会」 (スペイン史学会委員大会企画幹事として企画運営, 11月2日)

#### 豊岡康史

- ⑥ 1) [単独・国際] “Modulation of Truth: The British Occupation of Macau in 1808 and Asymmetric Communication between the Qing Central and Local Governments” (2014 Annual Conference of Association for Asian Studies, the Philadelphia Downtown Marriott, Philadelphia, U.S., 28 March, 2014) 2) [単独] 「嘉慶維新: 1799年、清朝政治改革の再検討」 (2014年度信大史学会, 2014年11月29日、あがたの森文化会館)
- ⑦ 科学研究費助成事業 (若手研究B) 「清朝中期の対外関係: 「カントンシステム」再検討 (1784-1833)」 (研究代表者)

株丹洋一

⑦ 1) 平成26年度信州大学出前講座「童話『眠れる森の美女』のルーツをたどって」(2014年3月7日, 松川村公民館) [単独] 2) 平成25年度グローバル人材育成事業「環境教育海外研修・ポルトガル・ドイツ」(『信州大学環境報告書2014』, 国立大学法人信州大学環境マインド推進センター, pp.27-28) [共同] 3) 平成26年度信州大学教員免許状更新講習「グリム童話のルーツを探る」(2014年8月9日, 信州大学人文学部) [単独] 4) 平成26年度信州大学研究力強化支援事業「国連 RCE (持続可能な発展教育の地域拠点) 活性化の研究」(研究代表者) [単独]

吉田正明

⑤ フランス語・フランス文学会秋季大会においてコーディネーターとしてワークショップ開催(「シャンソンにおける反戦・平和主義—歌を通して見たヒロシマのイマージュ」) 2014年10月26日, 於広島大学)

⑥ 1) 第1回東京シャンソンコンクール審査員(2014年5月12日, 於杉並公会堂) 2) シャンソン研究会代表としてシャンソン研究会主催「第23回シャンソン研究会」(2014年5月31日, 於追手門学院梅田サテライト), 「第24回シャンソン研究会」(2014年11月8日, 於信州大学人文学部) 3) 招待講演会「フランスの家庭料理とワインを楽しむ夕べ」(2014年6月12日, 於NANA'S HOUSE) 4) 県民共学講座実施(2014年5月16日, 7月4日, 於長野県林業大学校) 5) 日仏現代作家展実行委員(2014年8月21日~8月25日, 於松本市美術館) 6) 第5回秋のシャンソン祭り in 松本においてシャンソントーク「枯葉について」(2014年11月22日, 於松本市音楽文化ホール) 7) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金)(基盤C)(平成25年度~平成27年度)による研究課題「文芸キャバレーにおける文学とシャンソンの影響関係」(課題番号25370346)(研究代表者)

氏岡真士

② 1) 「談挿増本《水滸》の挿図標題」『信州大学人文科学論集』1, 155-183[単著] 2) 「鄭喬林本《水滸》的特徴」『高田時雄教授退休紀念東方学研究論集 [中文分冊]』東方学研究論集刊行会, 237-246[単著]

鎌田隆行

① 『フランスところ、どころ』, 弘学社, 2014[共著].  
 ② 「バルザックにおける「全集」と「知」」, 南山大学地域研究センター共同研究2013年度中間報告「19~20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」, 2014, pp.13-26. [単著].  
 ⑥ 1) 「« Monographie du rentier »——バルザックによる「凡庸」の分析」, 南山大学地域研究センター共同研究「19~20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係」第6回シンポジウム, 2014年3月27日, 南山大学 [単独]. 2) 「バルザックと食——生成批評の観点から」, 合同バルザック研究会, 2014年5月24日, お茶の水女子大学 [単独]. 3) 「バルザックにおける「書物」と「全集」」, 関西マラルメ研究会, 2014年9月15日, 神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ [単独]. 4) 「『そうとは知らない喜劇役者』——再発見の旅」, 関西バ

ルザック研究会, 2014年12月23日, 大手前大学 [単独].

- ⑦ 1) 学会司会: 第24回シャンソン研究会 (2014年11月9日, 信州大学人文学部). 2) 学会司会: 2014年度日本フランス語フランス文学会中部支部大会 (2014年12月6日, 愛知大学名古屋キャンパス) 3) Groupe International de Recherches Balzaciennes (国際バルザック研究会) 執行部メンバー (2008年3月~). 4) 日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員 (2011年4月~). 5) 日本フランス語フランス文学会 中部支部幹事 (2014年4月~). 6) シャンソン研究会 参与 (2011年10月~). 7) 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「バルザック『セザール・ピロトー』の生成批評版の構築」(2012年~2015年, 研究課題番号24520344) 研究代表者.

#### 渋谷豊

- ⑤ 1) 「在りし日の物語 (ミシェル・ウエルベック『地図と領土』)」『ふらんす』2014年4月号 p.105 [単著] 2) 「親が子に、子が親に与えるもの (飛幡祐規『時間という贈りもの』、パメラ・ドラッカーマン『フランスの子供は夜泣きをしない』)」『ふらんす』2014年11月号 p.72 [単著]
- ⑦ 1) 科学研究費基盤研究(C)「『フランス・ジャポン』研究——大戦前夜の在仏邦人の出版活動」(課題番号24520345) 研究代表者 2) 科学研究費基盤研究(B)「現代フランス小説——第二次大戦および戦後の記憶の再編成の視座から」(課題番号25284064) 研究分担者 3) 日仏翻訳文学賞選考準備委員会座長

#### 野津 寛

- ② 1) 「比較文学としてのラテン語」, 『信州大学人文科学論集』第1号, 2014, pp.185-209, 2014年3月 [単著]
- ⑥ 1) 「近代日本における西洋古典学研究——ケーベル博士と田中秀央をつなぐもの」2014年3月15日, 宇和島市立歴史資料館 [単独] 2) “L’*Odyssée* et les *Métamorphoses* d’Apulée” [単独・国際]2014年8月21日, ジュネーブ Fondation Hardt
- ⑦ 1) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催 (2014年1月25日, アテネフランセ) 2) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催 (2014年10月4日, アテネフランセ).

#### 磯部美穂

- ② [単独] ISOBE, Miho (2014): *Eine Entwicklungsstufe im Ausbau des deutschen Wortbildungssystems. Ist die Abstrakta-Bildung nur für die Sprache der Mystiker charakteristisch?* In: *Sprache an medial-technischen Schwellen. Die Sprache ändert sich, aber wie?* (IDE, Manshu Hg.). 日本独文学会研究叢書100号, 3-12頁。
- ⑥ [共同] GOTO, Corinna / ISOBE, Miho: *Fehleranalyse: Zur Verbesserung der Schreibkompetenz*. 日本独文学会北陸支部2014年度研究発表会, 2014年11月11日, 於 金沢大学サテライトプラザ。

杉野健太郎

⑥ 1) 学会シンポジウム「アメリカ文学・文化と映画を教える」、中・四国アメリカ文学会第43回大会、2014年6月15日、高知大学人文学部、的場いづみ、山野敬士、上西哲雄と[共同]。 2) 学会発表「ワーク・イン・プログレス F. Scott Fitzgerald の *The Great Gatsby* の Buz Luhrmann 監督によるアダプテーションについて」、日本F. スコット・フィッツジェラルド協会研究会、2014年9月20日、立教大学。[単独] 3) 学会シンポジウム「アメリカ文学と映画」、日本アメリカ文学会第53回全国大会、2014年10月5日、北海学園大学。的場いづみ、上西哲雄、大地真介と[共同]。 4) 学会シンポジウム「路と異界のアメリカロード・ナラティブと他者」、日本英文学会中部支部第66回支部大会、2014年10月18日、中京大学。森有礼、小原文衛、塚田幸光と[共同]。

⑦ 1) 「編集後記」、『中部英文学』第33号(2014年1月20日)、p. 65 (254)。 2) 信州大学人文学部外国語セミナー「アメリカ文化理解～政党文化について」、2014年5月9日、信州大学人文学部人文ホール。 3) 信州大学人文学部後援会講演「『イーザー・ライダー』(1969)の衝撃とは何だったのか～映画とアメリカ文化を学んでみよう～」、2014年7月19日、信州大学人文学部。 4) 安曇野市市民講座「『イーザー・ライダー』(1969)の衝撃とは何だったのか～映画とアメリカ文化を学んでみよう～」、2014年11月7日、安曇野市穂高交流学習センター。 5) 学会役員： 日本映画学会常任理事・事務局長(2014年1月～3月)／日本映画学会副会長・事務局長(2014年4月～12月)／日本英文学会中部支部編集委員会委員長・運営委員／日本スコット・フィッツジェラルド協会再生委員会委員(2013年7月から2014年3月)／日本スコット・フィッツジェラルド協会評議員(2014年4月から2014年12月)。サウンディングス英語英米文学会学会誌『サウンディングス』第40号(2014年11月25日刊行)編集委員。 6) 松本県ヶ丘高等学校評議員(2014年4月から2014年12月)

伊藤 盡

② 1) (単著)「北欧神話の雷神ソールと『マイティ・ソー』』『ユリイカ：詩と批評』2014年5月号、198-209。 2) (単著)「『ファンタジー作家と画作のクロスオーバー：トーヴェ・ヤンソンの『ホビット』挿絵再評価』『ユリイカ：詩と批評』2014年8月号、211-25。

③ 1) 翻訳監修(共同) 辺見葉子、伊藤盡、高橋勇 映画『ホビット：竜に奪われた王国』(制作：ワーナー・ブラザーズ、配給：松竹)(2014年2月28日全国ロードショー) 2) 翻訳協力(共同) 辺見葉子、伊藤盡、高橋勇 映画『ホビット：竜に奪われた王国』劇場用パンフレット(編集・発行 松竹株式会社事業部)2014年2月 3) 翻訳(単独) ヨーン・カール・ヘルガソン著「『ヘイムスクリングラ』は誰が書いたのか? : 作品と著者/分散執筆者の複雑な関係」(‘The Distributed Authorship of Heimskringla’) (解説 小澤実)『北歐史研究』第31号(2014年10月) pp.53-61 (解説, p.62)。 4) 翻訳監修(共同) 辺見葉子、伊藤盡、高橋勇 映画『ホビット：決戦のゆくえ』(制作：ワーナー・ブラザーズ、配給：松竹)(2014年12月13日全国ロードショー) 5) 翻訳協力(共同) 辺見葉子、伊藤盡、高橋勇 映画『ホビット：決戦のゆくえ』劇場用パンフレット(編集・発行 松竹株式会社事業部)2014年12月

⑤ 1) 記事「馬々とアイスランド人とアイスランドに魅入られた人たち」『馬々と人間たち』



劇場用パンフレット（株式会社マジックアワー、2014年11月）pp.16-17.

- ⑥ 1) [単独・国際] ‘Fainting and Sleep in Bilbo's Biodynamic Biography: Different Degree of Death in The Hobbit and The Lord of the Rings’. 4th International Symposium on Comparative Culture: Representations of Death across Cultures 於神奈川大学横浜キャンパス（2014年6月7日）
- ⑦ 1) 講演「日本人のためのエルフ語講座『ホビット 竜に奪われた王国』編 @ワーナー・ブラザーズ・ジャパン」於ワーナー・ブラザーズ・ジャパン（2014年2月27日）
- 2) 講演「赤ちゃんからはじめるABC」於松本市中央図書館（2014年3月7日） 3) 講演「赤ちゃんからはじめるABC」於松本市梓川図書館（2014年3月13日） 4) 講演「ファンタジーの始めに「言葉ありき」：『指輪物語』の神話学」日比谷カレッジ 於千代田区立日比谷図書文化館（2014年7月19日） 5) 講師招聘 ストラスブール大学講師 Pierre-Brice Stahl 博士による講演 ‘Óðinn the All-Wise’ 信州大学人文学部 田中荘太郎（四年生）、李華雨、大谷真実（三年生）研究発表 ‘Strife and Storms: A New Approach to Old English Riddle 2’ 第5回信州大学人文学部国際セミナー。人文ホールにて（2014年7月29日） 6) 講演「カンブリアのサガ：ラスキンの秘書 W. G. コリングウッドの小説」ラスキン文庫2014講演会 於中央大学駿河台記念館（2014年11月8日） 7) 日本中世英語英文学会 学会誌編集委員（2014年1月1日～12月31日） 8) 日本学術振興会科学研究費基盤研究C 課題番号23520580「ルーン碑文を利用した、中世ノルウェー語の英語への影響研究」研究成果報告書 9) 英国ブリティッシュ・カウンシル主催 第6回英国大学視察旅行報告書 10) 講演（共同）赤ペン瀧川先生氏司会、伊藤盡「ホビット：決戦のゆくえ」特別講座 於ワーナー・ブラザーズ東京試写室（2014年12月10日）

沖 裕子

- ①『柳田方言学の現代的意義—あいさつ表現と方言形成論—』小林隆編，ひつじ書房，399Pp.（「方言にみる頼みかたの表現と発想」 pp.125-142[単著]）
- ②「談話論からみた命令表現」（『日本語学』第33巻第4号，pp.14-22，明治書院）[単著]
- ⑥ 1) 招待講演「日本語依頼表現の特徴—ていねいな依頼とは何か—」（2014年3月1日，於国際交流基金ジャカルタ日本文化センター，インドネシア日本語教育学会ジャボデタベック支部・JF ジャカルタ共催）[単独・国際] 2) 学会発表「談話論からみた依頼表現と要求表現」（2014年7月11日（金），於オーストラリアシドニー工科大学，日本語教育国際研究大会2014）[単独・国際]
- ⑦ 1) 事典項目執筆：日本語文法学会編『日本語文法事典』大修館書店、2014年7月刊行，項目執筆：コンタミネーション（混交・混淆）[単独] 2) 事典項目執筆：『日本語大事典』朝倉書店，2014年11月刊行，項目執筆：気づかれにくい方言，方言の談話 [単独] 3) 日本語教育学会学会誌査読協力者 4) 社会言語科学会編集委員会外部査読者（2014年2月～5月） 5) 日本語学会評議員 6) 韓国日本語学会理事（2014年1月～2015年9月） 7) 国立国語研究所基幹研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」共同研究者 8) 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員（2012年6月～2014年7月） 9) 日本学術振興会科学研究費基盤研究C・課題番号24520498「発想と表現からみる日本語談話の

対照談話論的研究」研究代表者（2012年4月～2015年3月）10）信州大学グローバル人材育成事業助成（2014年2月27日（木）～3月5日（水）、学生6名引率、国際交流基金ジャカルタ日本文化センター共催）

山田健三

②山田健三・奥瀬真紀（2014-03）「敬語接頭辞「オ-／ゴ-（御）」の使い分け原理試論：ポライトネス理論の観点から」『信州大学人文科学論集』1〔共著〕

⑥山田健三「「成立期の仮名」をめぐる日本語書記システム史上の問題」（2014年12月13日 日本史研究会12月例会「仮名文字といろは歌をめぐる諸問題～変体仮名の成立とその集約～」 於京都教育大学）

⑦1）日本語学会 編集委員（2013年6月～2016年5月）2）日本学術振興会科学研究費助成（挑戦的萌芽研究）「「平仮名」の言語史的意味と変遷の解明を中心とする日本語書記技術史研究」（課題番号2465209 100）研究代表者

渡邊匡一

①『「五十嵐日記」古書店の原風景』（「諏訪における真言宗以前一鎌倉～南北朝期の寺院展開」）（五十嵐日記刊行会、笠間書院、11月）〔共著〕

⑦1）説話文学会委員（平成19年10月～27年9月）2）仏教文学会委員（平成22年4月～26年3月）3）全国大学国語国文学会編集委員（平成26年7月～28年6月）4）日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）「中世後期真言宗寺院における学問形成についての基礎的研究（課題番号：22420175）研究代表者

白井 純

②「キリシタン文献の「傍流」国字本『ひですの経』からみた『妙貞問答』、末木文美士編『妙貞問答を読む ハビアンへの仏教批判』宝蔵館所収、〔単著〕、pp.475-485、2014

⑤「原田版「こんてむつすむん地」の版式について」、キリシタン語学研究会、京都府立大学、〔国内・単独〕2014.9.9

⑦1）日本学術振興会科学研究費若手研究（B）「「ひですの経」の言語的特徴によるイエズス会の言語規範の批判的再検討」（課題番号24720205）研究代表者 2）日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）「多言語辞書と金属活字印刷から探るキリシタン文献の文字・語彙同定の過程」（課題番号23320093）研究分担者

速水香織

⑦1）「江戸時代の旅行情報誌をめぐる——『岐蘇路安見絵図』ができるまで——」（信州大学人文学公開講座第67回夕べのセミナー、2014・7・15〔単独〕）2）「江戸時代の出版文化——知の広がりと言長——」（古事記伝第一歩250年記念 夏の特別展「ホンと！言長」関連特別講座、本居言長記念館、2014・9・7〔単独〕）3）くわな市民大学文化科講座「『曾我物語』を読む」（桑名市中央公民館、全7回2014・5～12〔単独〕）4）皇學館大学人文学会学外委員（2013・10～現在に至る）6）国文学研究資料館国文学文献資料調査員

(2013・4～現在に至る) 7) 日本学術振興会科学研究費若手研究B・課題番号26770800  
「出版メディアを基盤とした江戸板浮世草子・俳諧及び作者の総合的研究」研究代表者

松本和也

- ① 小栗風葉をひろめる会編『小栗風葉あんない17号』(小栗風葉をひろめる会, 71頁) [共著]
- ② 1) 「墨画小品展と「大菩薩峠」挿絵——新出石井鶴三宛中里介山・西田武雄書簡から」(『信州大学附属図書館研究』, 第3号, 信州大学附属図書館, pp.19-36) [単著] 2) 「昭和一〇年前後の高見順——「故旧忘れ得べき」と短編群」(『信州大学人文科学論集』, 第1号, 信州大学人文学部, pp.269-287) [単著] 3) 「白と“書くこと”——多和田葉子『雪の練習生』」(『季刊 現代文学』, 第88号, 「現代文学」編集委員会, pp.47-64) [単著] 4) 「昭和一二年の報告文学言説——尾崎士郎を視座として」(『文芸研究』, 第177集, 日本文芸研究会, pp.1-13) [単著] 5) 「昭和一〇年代における〈森鷗外〉——太宰治「女の決闘」から／へ」(『ゲストハウス』, 第6号, 『ゲストハウス』編集部, pp.14-28) [単著] 6) 「戦略としての話法——太宰治『佳日』という書物」(『太宰治スタディーズ』, 第5号, 「太宰治スタディーズ」の会, pp.116-125) [単著] 7) 「文学作品にみる服装(国民服)の機能——太宰治「服装に就いて」を読む」(『DRESSTUDY』, 第66号, 京都服飾文化研究財団, pp.10-20) [単著] 8) 「小説内小説の書法——村上春樹「蜂蜜パイ」から『1Q84』へ」(『ゲストハウス』, 臨時増刊号vi, 『ゲストハウス』編集部, pp.21-32) [単著]
- ⑤ 月報「草の匂い——小島信夫と村上春樹」(『小島信夫短篇集成1』水声社) [単著]
- ⑥ 1) 「現代小説の進行形——文学研究にとっての創作・研究・教育: 大学で考えたことごと」(日本近代文学会東海支部2013年度シンポジウム, 2014年3月29日, 愛知淑徳大学) [単独] 2) 「川端康成「高原」連作から考える文学場一面」(2014年度立教大学日本文学会大会, 2014年7月5日, 立教大学) [単独] 3) 「日中戦争期の中国文学受容一面——太宰治と中国について考えるための補助線」(「太宰治スタディーズ」の会, 2014年12月23日, 慶應義塾志木高等学校) [単独]
- ⑦ 1) 「太宰治『人間失格』を読む」(2014年2月19日, 諏訪市公民館) [単独] 2) 松本和也編『北杜夫初期作品の基礎的研究』(信州大学人文学部松本研究室, 74頁)

